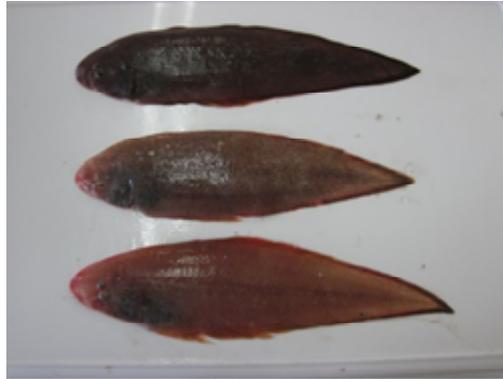


## ・ウシノシタ類の種苗生産技術開発に着手

ウシノシタ類は地方名「ゲタ」と呼ばれ、古くから親しまれてきた地魚である。最近では「岡山ソール」として、ブランド化も取り組まれている。

岡山県では、コウライアカシタビラメ、アカシタビラメ及びイヌノシタの3種(写真1)が、主に小型底びき網で漁獲される。しかし、ウシノシタ類の漁獲量は近年減少傾向にあり(図1)、種苗放流による資源の底上げが必要となる



コウライアカシタビラメ  
体長：50cm  
産卵期：3～4月  
アカシタビラメ  
体長：30cm  
産卵期：夏  
イヌノシタ  
体長：40cm  
産卵期：6～8月

写真1：岡山で漁獲されるウシノシタ類

状況も予想されているものの、ウシノシタ類の種苗生産はコウライアカシタビラメについてわずかな機関で試験的に行われているに留まり、量産には至っていない。

そこで、水産研究所資源増殖室では23年度から3カ年の計画でウシノシタ類の量産技術の開発に取り組む。現在、4月に産卵期を迎えるコウライアカシタビラメについて、牛窓町周辺で採集した親魚約50尾を飼育し、採卵準備を進めている(写真2)。採卵後は、卵質、仔稚魚期の収容密度、餌料等の飼育条件等の検討を行う。県産ウシノシタ類の資源回復のために、一日も早い量産技術の確立に努めていきたい。(後藤)

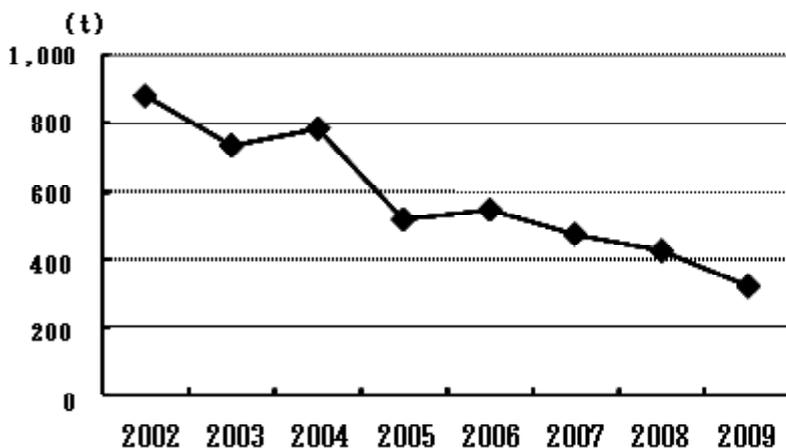


図1：標本漁協における近年のウシノシタ類漁獲量



写真2：親魚飼育水槽